

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語ミュージアムフレッシュアップ事業				
事業の概要	<p>平成20年は、「源氏物語千年紀」であるとともに、源氏物語ミュージアム開館10周年でもあり、この記念すべき年に本市のさらなる文化創造の発展と観光振興に寄与するため、さらにはこれまで有しているミュージアムの存在価値に新鮮な感覚を付加するために、常設展示の内容を大幅に変更するとともに、新作映画「橋姫」の制作などのフレッシュアップ事業を実施し、平成20年9月にリニューアルオープンした。</p> <p>リニューアル後の展示の特徴は、ミュージアムとしての機能をより充実させたアカデミックな展示になっている。歴史的資料などを展示する施設としての機能を高め、源氏物語の世界を理解しやすくするために物語に登場する装束や調度品、遊び道具などをわかりやすい解説文とともに展示している。また映像と照明効果を使い、幅広い層に楽しんでもらえるエンターテインメント性を加えたものとした。映像を使った源氏物語の概要紹介や照明効果を使った宇治十帖の登場人物紹介などを行い、初めて源氏物語に触れる人にも楽しんでもらえる展示になっている。</p>					
	事業期間	平成19年7月4日～平成20年10月5日				
	総事業費	249,400千円	本年度事業費	249,400千円	交付金交付額	21,123千円
事業評価	事業の必要性	源氏物語のまちづくりの中核施設として、施設の再整備、コンテンツの充実を図る必要がある。				
	事業の有効性	これまで有しているミュージアムの存在価値に新鮮な感覚を付加することで、入館者数の増加を図ることができる。				
	事業の効率性	源氏物語千年紀及び開館10周年にタイミングを合わせることで、リニューアルオープンの効果がより高まる。				
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。</p>				
		<p>2 住民の自治意識を高める成果 宇治市の文化の創造と観光振興に大きく寄与する施設としての市民意識が高まった。</p>				
		<p>3 リーディング・モデル成果 平成20年度入館者数が開館以来の最高水準である20万人を超え、本市の観光資源のひとつとしての存在価値が高まった。</p>				
<p>4 広域的波及成果 源氏物語や平安時代の文化に関するさまざまな情報発信を全国的に展開することができた。</p>						
<p>5 行財政改革に資する成果 市民の生涯学習施設として、観光資源としての役割が高まり、また入館料収入も増加するなど、その費用対効果は大きいものとなった。</p>						
<p>6 その他の成果</p>						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語彩のみち整備事業				
事業の概要	源氏物語千年紀事業の一環として、源氏物語ミュージアムから宇治川までの散策路において、イロハモミジ・ヤマブキと源氏物語にちなんだ椿(ヒカルゲンジ、カリヨウビン、ゲンジグルマ)を植樹し、椿の説明看板を4カ所設置する。					
	事業期間	平成20年8月22日～平成20年11月19日				
	総事業費	5,102千円	本年度事業費	5,102千円	交付金交付額	2,000千円
事業評価	事業の必要性	源氏物語千年紀を迎えるにあたり、宇治橋周辺の観光ルートと源氏物語ミュージアムの効果的な連携を図るため、源氏物語にちなんだ椿を植樹することによって、一体的な整備と市民意識の向上を図る。				
	事業の有効性	観光スポットの動線強化を図り、既存の施設の再活用を図るとともに、面的な整備の推進が行える。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。				
		2 住民の自治意識を高める成果 源氏物語千年紀の機運を盛り上げ、市民や観光客へPRするため中心となる源氏物語ミュージアムの周辺整備とともに宇治川一帯の観光交流ルートを整備することにより、景観や樹木名板などを通して市民や来訪者に緑化への啓発を図った。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 源氏物語千年紀として市民や観光客にPRし、観光客の増加や源氏物語ミュージアムへの来館者の増加を図ることができ、入館料収入の増加に繋がった。						
6 その他の成果 源氏物語ミュージアムのリニューアルオープンと合わせた一部植樹や、樹木名板への源氏物語千年紀ロゴマークの印字など「源氏物語千年紀」の機運を盛り上げることができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語千年紀事業推進費			
事業の概要		<p>源氏物語千年紀という大きな節目を迎え、女性による文学が豊かに花開いた平安時代の文化を再評価し、広く理解を深めるとともに、日本人が自国の文化への誇りを高め、日本の古典文化の豊かさを次世代に伝え、さらには、文化の力によって社会に活力を与え、経済を発展させるというのが、源氏物語千年紀の基本的なコンセプトとしている。</p> <p>全編54帖のうち最後の十帖は、その主要な舞台が宇治の地に設定されていることから「宇治十帖」と呼ばれており、「源氏物語のまちづくり」を推進している本市としては、源氏物語千年紀を迎える平成20年を好機として、千年紀事業として多彩な事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源氏物語千年紀記念式典、源氏物語国際フォーラム等源氏物語千年紀委員会事業への取り組み ・源氏物語千年紀事業広報活動(源氏物語のまちづくり及び宇治市源氏物語ミュージアムリニューアルPR等) ・源氏物語千年紀事業情報パンフレット作成等 			
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日			
	総事業費	39,372千円	本年度事業費	39,372千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	源氏物語千年紀にあたり、源氏物語宇治十帖の舞台である宇治市は、「源氏物語のまちづくり」を推進しており、宇治市源氏物語ミュージアムリニューアル等源氏物語に関連する事業を各種展開しております。関係機関や団体、市民とも連携する中でその各種事業のPR活動及び情報提供することで、更なる文化、観光の振興と魅力あるまちづくりにつなげる。			
	事業の有効性	源氏物語千年紀事業を推進することで、各種事業の連携による文化及び観光振興につなげ、宇治市の更なるイメージ向上及びブランド力強化に寄与すると考える。			
	事業の効率性	宇治市、京都府及び京都市が広域的に事業展開を図っており、各団体関連イベントの情報について横断的に共同して情報提供する。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。			
		2 住民の自治意識を高める成果 国内外の研究者等を招いて源氏物語について語り合い、交流を深める源氏物語国際フォーラムを宇治市文化センター等で開催し、市民の方に対して源氏物語千年紀の目的を広く共有する場とでき、あわせて源氏物語に関連した市民の取り組みに支援する市民公募事業を展開して、行政と一体となって源氏物語のまちづくりを推進した。			
		3 リーディング・モデル成果 「源氏物語」をテーマとして既存事業等観光資源を有効的に活用し、宇治市独自の事業を積極的に普及・広報するために先進的な文化・観光振興の取り組みとなった。			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果 京都府との連携等広域的連携により、源氏物語ミュージアムの入館料収入も増加するなど、その費用対効果は大きいものであった。					
6 その他の成果 「源氏物語千年紀」をテーマに京都市の来訪者等に、宇治の情報発信の範囲を拡大し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		源氏物語情報発信事業			
事業の概要		<p>京都府及び宇治市が連携して取り組む当該事業は、携帯情報端末を活用した観光等各種情報提供を最適に行い、来訪者の理解と満足度を高めることを目的としてシステム構築を目指すもので、平成19年度には実証実験に必要な源氏物語及び観光関連情報の収集とそのデジタル化に取り組み、平成20年度はその実証実験を実施する。</p> <p>宇治市が取り組む源氏物語をテーマとしたまちづくりコンセプトに基づき、平成20年度に源氏物語千年紀を迎えるにあたり、宇治市源氏物語ミュージアムを中心とした観光エリア、及び世界文化遺産である平等院・宇治上神社等実証実験対象エリアを中心にJR宇治駅及び京阪宇治駅を起点とした主要な観光名所へのルート案内及び観光名所の解説等情報コンテンツの作成と携帯情報端末を活用した情報発信のノウハウ習得につながる。</p>			
		事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日		
		総事業費	17,239千円	本年度事業費	17,239千円
事業評価	事業の必要性	<p>現地での携帯情報端末による各種情報提供を、事前情報の収集、現地体験、来訪後の追体験という形で、それぞれの段階に応じて提供する最適な情報提供システムを構築して、来訪者により分かりやすく必要な情報を伝達することが可能となり、新規観光客の開拓及びリピーター化を図る。</p>			
	事業の有効性	<p>現地の携帯情報端末では、写真や文章だけでなく音声、動画を活用し、ユニバーサルデザインの視点から、外国人観光客への対応及び視覚等障害者にも分かりやすい情報提供を検証する。</p>			
	事業の効率性	<p>宇治市源氏物語ミュージアムから宇治橋周辺地区等の源氏物語宇治十帖の舞台を中心に、源氏物語ゆかりの各地域の情報を共通プラットフォームのホームページによる物語の展開等と連携し、広域的関連イベントの情報についても情報提供を行う。</p>			
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果 ユニバーサルデザインによる生活環境づくり事業は、京都府及び宇治市が連携して取り組む事業で、源氏物語千年紀に関連した情報提供を実施した。</p>			
		<p>2 住民の自治意識を高める成果 市民の方及び観光客の方に携帯情報端末をもってもらい実証実験を行うことにより、観光ルート等観光関連情報への意見を集約することができた。</p>			
		<p>3 リーディング・モデル成果 国土交通省事業「自立移動支援システム」の実証実験に準拠して、移動経路及び施設案内等の情報を入手することができるシステム構築に向けた事業として取り組みをおこなった。</p>			
<p>4 広域的波及成果</p>					
<p>5 行財政改革に資する成果 京都府との連携等広域的コンテンツ開発により、源氏物語ミュージアムの入館料収入も増加するなど、その費用対効果は大きいものであった。</p>					
<p>6 その他の成果 観光客に対して、「源氏物語」をテーマに関係地域(大津市、越前市、神戸市、明石市)の情報を提供するインターネットのホームページにより、宇治の情報発信の範囲を拡大したことにより、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。</p>					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		源氏ろまん2008事業(宇治十帖スタンプラリー事業)			
事業の概要		<p>源氏物語「宇治十帖」の古跡を中心に、世界遺産の宇治上神社、平等院ほか市内の史跡や宇治の自然を歩く「宇治十帖スタンプラリー」は、秋の恒例イベントとして市内外から多くの人々が訪れる宇治の歴史と自然を満喫できる事業である。</p> <p>平成20年度は、源氏物語千年紀事業として開催し、開催期間の延長や、踏破者には特別バッジの進呈、特別ポイントに「宇治市源氏物語ミュージアム」等を追加するなど、事業の充実を図る。</p>			
	事業期間	平成20年10月25日～平成20年11月9日			
	総事業費	8,584千円	本年度事業費	8,584千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	源氏物語が平成20年に千年紀を迎えることから、本市が進めてきた「源氏物語のまちづくり」の機運を盛り上げる。			
	事業の有効性	<p>紫式部文学賞・紫式部市民文化賞贈呈式及び記念イベントを中心として、秋に開催する「源氏ろまん」事業の一つとして実施することができ、地域文化の向上、観光の振興、市民のふるさと意識の醸成に有効である。</p> <p>スタンプ帳130,000部・ポスター3,200枚を作成し、公共施設、歴史街道関連施設(25箇所)、京阪(10駅)・近鉄(15駅)・JR(19駅)の近畿圏沿線各駅等に配付、広域的にPRを行う。</p>			
	事業の効率性	各電鉄会社の情報誌にスタンプラリーの記事を掲載してもらい、広くPRを行なうことができる。宇治市レクリエーション団体連絡協議会・宇治観光ボランティアガイドクラブ・京都文教大学の協力、及び京都府茶協同組合・ひらかたパークの協賛を得て実施することができる。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果	京都府、京都府教育委員会から後援をうけることができた。踏破後のお楽しみ抽選の賞品として、京都府茶協同組合より玉露の提供をいただき、全国を代表するブランド「宇治茶」を活用した地域の活性化を図った。		
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果		<p>スタンプ帳・ポスターを歴史街道関連施設、京阪・近鉄・JRの近畿圏沿線各駅等に配付し、広域的にPRを行った。</p> <p>初日と二日目に行なったアンケートの結果によると、参加者の約1/4が他府県からの参加者と、市外からの多くの集客に繋がった。</p>			
5 行財政改革に資する成果		<p>特別ポイント「宇治市源氏物語ミュージアム」には、当該期間中多くの参加者が訪れ、スタンプ帳には「源氏ろまん」の各事業の紹介記事も掲載するなど、効率的な事業実施を行い、その費用対効果は大きいものとなった。</p>			
6 その他の成果	<p>ゴール地点の京都府立宇治公園中の島では、宇治市観光協会・宇治市障害者福祉施設連絡協議会による出店があり、参加者で賑わった。</p>				

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		中小企業振興対策事業					
事業の概要		源氏物語が平成20年に一千年を迎えることを契機として商店街等の行う記念事業に対しては特別支援を行い、商店街等の活性化と振興発展を図る。平成20年度は下記6団体が源氏物語千年紀を記念した事業を行い、源氏物語千年紀の周知を図るとともに、事業実施団体である商店街等の集客効果が得られ、商業の活性化につながる。					
		【補助団体】 ①宇治源氏タウン銘店会 エコバッグ作成 ②宇治観光土産品組合 宇治灯り絵巻におけるRinコンサート ③大久保駅前フェスティバル実行委員会 セタまつり ④宇治商工会議所 出張!なんでも鑑定団in宇治 ⑤宇治橋通商店街振興組合 のぼり作成 ⑥ロクモール商店街振興会 六地藏ふれあい祭り					
		事業期間	平成20年4月1日 ~ 平成21年3月31日				
		総事業費	2,758千円	本年度事業費	2,758千円	交付金交付額	1,000千円
事業評価	事業の必要性	地元商店街等の新たな取組みに対して支援する事業となっており、観光振興と商業育成・振興を図ることができる。					
	事業の有効性	源氏物語千年紀の周知を図ると共に、商店街の取組みに付加価値をつけることで、集客増につなげることができる。					
	事業の効率性	源氏物語に関連した事業を商店街等が展開することで、宇治の観光資源である「源氏物語宇治十帖」と、商店街等を市内外にPRすることができる。					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。					
		2 住民の自治意識を高める成果 住民が、商店街等の取組みをとおして地域のもつ観光資源について知ることで、商店街等を含めた地域の良さを再認識することができた。					
		3 リーディング・モデル成果 観光資源である「源氏物語宇治十帖」と商店街の取組みを結びつけることで、新たな視点からの商店街PRを図ることができた。					
4 広域的波及成果							
5 行財政改革に資する成果							
6 その他の成果 商店街等が地域住民と連携した取組みを行うことで、全市的に源氏物語千年紀の気運を高めることができた。							

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		観光関連施設整備事業				
事業の概要		<p>源氏物語が千年紀を迎えることから、「源氏物語のまちづくり」を進めてきた本市も多彩な取組みにより気運を盛り上げていくため、JR宇治駅・京阪宇治駅から平等院、源氏物語ミュージアムを中心とした観光施設へのアクセスを容易にするための統一感ある案内板設置を行う。</p> <p>JR宇治駅及び京阪宇治駅から世界文化遺産（平等院・宇治上神社）及び源氏物語ミュージアム等へわかりやすく誘導するために観光案内板22ヶ所（ただし、22ヶ所の内、3ヶ所は既存看板を移設し盤面を更新）及びこまかげの道に観光案内板3ヶ所を作成・設置する。</p>				
	事業期間	平成20年6月13日～平成20年8月31日				
	総事業費	6,007千円	本年度事業費	6,007千円	交付金交付額	2,000千円
事業評価	事業の必要性	設置主体・時期等の関係で不統一感のあった案内板を統一的且つわかりやすいものに更新することで、観光客に優しいまちづくりを目指す。				
	事業の有効性					
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果	京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。			
		2 住民の自治意識を高める成果	源氏物語に関連する観光資源を活用したことにより、新たな市民文化の創造を図る契機となった。			
		3 リーディング・モデル成果	源氏物語千年紀事業として実施することにより、源氏物語に関連する観光資源をはじめ、様々な文化遺産を見つめなおす機会となり地域資源の活性化を図ることができた。			
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
	6 その他の成果	統一的な看板の設置により、「観光のまち宇治」としての多くの観光客にアピールすることができた。				

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		観光協会補助金				
事業の概要		<p>①灯り絵巻・・・2,000千円 宇治川の沿道に行灯を並べ、幻想的な夜の情景を演出すると共に、世界遺産の宇治上神社などのライトアップやお茶席、演奏会などを催す。</p> <p>②宇治川新船（舞台舟）造船補助・・・4,250千円 源氏物語千年紀を契機に新しい観光資源として活用、誘客、観光振興を図る。 ・源氏物語千年紀に因んだ舞台舟、屋形船等として活用し、四季折々の宇治川の風情を多くの方に満喫してもらう。 ・風光明媚な宇治川での遊覧観光、食事、会議（椅子、テーブル席）等に使用可能であり、年間通じて集客率の増加を図る。 ※椅子、テーブルを舟上に設置できることにより、正座が困難な高齢者の方や外国の方の誘客が見込める。</p>				
	事業期間	平成20年4月1日～平成20年12月1日				
	総事業費	6,250千円	本年度事業費	6,250千円	交付金交付額	3,000千円
事業評価	事業の必要性	「源氏物語のまち宇治」をテーマとしてまちづくりを進めてきた本市にとって本事業の取り組みは、源氏物語千年紀事業の機運を盛り上げ観光促進を図る。				
	事業の有効性	宇治川花火大会や鶴飼が中心となっていた夜の観光イベントが本事業を開催することにより、夏から秋へとつづき、夜の観光イベントの充実を図ることができる。				
	事業の効率性	源氏物語千年紀事業のイベントとして実施することにより、「源氏物語のまち宇治」のイメージをより強く宣伝することで、観光客集客の増加を図る。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果	本事業は源氏物語千年紀を盛り上げるため実施した取り組みのひとつで、源氏物語のまちづくりをめざしていた本市が、観光資源を活かして観光振興を図ったものであり、山城地域振興計画「やましろ観光の推進」の趣旨に合致した事業となった。			
		2 住民の自治意識を高める成果	源氏物語に関連する観光資源を活用したことにより、新たな市民文化の創造を図る契機となった。			
		3 リーディング・モデル成果	源氏物語千年紀事業として実施することにより、源氏物語に関連する観光資源をはじめ、様々な文化遺産を見つめなおす機会となり地域資源の活性化を図ることができた。			
4 広域的波及成果		本市の観光資源を利用し本事業を実施したことにより、「源氏物語のまち宇治」として新たな市民文化の創造と本市の素晴らしいイメージを全国に発信することができ、観光促進を図ることができた。				
5 行財政改革に資する成果						
	6 その他の成果					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		消費生活展開催事業				
事業の概要	<p>食や環境の問題等消費生活に関する諸問題を楽しみながら考える場を提供すると共に、消費者団体等の市民団体と市民のふれあいの場として、広く市民に親しまれる企画や展示、販売を中心に多彩なイベントとして実施する。</p> <p>平成20年度は源氏物語千年紀を迎えるため、平安時代の『衣・食・住』をテーマとした企画・体験事業を実施する。</p> <p>○展示コーナー 食の文化 平安時代そして現在 ○千年紀コーナー 源氏物語へのいざない、紫式部モニュメント ○体験コーナー 親子料理教室 源氏物語にちなんだ寿司づくり ○販売コーナー等</p>					
	事業期間	平成20年5月1日～平成20年8月8日				
	総事業費	830千円	本年度事業費	830千円	交付金交付額	50千円
事業評価	事業の必要性	自立した賢い消費者の育成を図るとともに、源氏物語千年紀の気運を高める。				
	事業の有効性	社会や市民のニーズに応じ、身近な消費生活における問題を提起し、情報を発信し賢い消費者を目指すと共に、源氏物語千年紀を大きな節目となる機会と捉え、様々な事業を実施し、気運を高める。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 単独ブースで源氏物語千年紀を取り上げるのではなく、テーマとして掲げ出店団体の全てが対応する事で全体的な盛り上がりにつながった。大きな節目である「源氏物語千年紀」を迎え市民の関心も高まる中、多様な事業と結びつけることで気運を高めると共に、「温故知新」の言葉のとおり新たな市民文化を創造することができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		公園施設管理委託事業(源氏物語千年紀タペストリー開催)				
事業の概要	源氏物語千年紀事業の一環として、植物公園内の「花と緑のタペストリー」に源氏物語絵巻「宿木」の場面をベゴニア、マリーゴールド、コリウス、キャラボクなど10種類、15品種の植物を用い、縦18m、横62mの壮大な花の絵として再現する。秋の大空をバックに花で描かれた平安時代の壮大な絵巻が、源氏物語宇治十帖ゆかりの地の植物公園によみがえり、源氏物語千年紀を飾る。					
	事業期間	平成20年9月2日～平成20年11月16日				
	総事業費	8,617千円	本年度事業費	8,617千円	交付金交付額	3,000千円
事業評価	事業の必要性	源氏物語千年紀を迎えるにあたり、市民意識の啓発を図る。				
	事業の有効性	巨大なタペストリーで市民に対し視覚的に啓発するとともに、「源氏物語色と植物特別企画展」との連携を含め、市民意識の啓発を各種事業と連携して行う。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。				
		2 住民の自治意識を高める成果 源氏物語千年紀の機運を盛り上げるため、植物公園でのイベントや11月1日の千年紀記念式典の日とあわせて開催することにより、宇治市植物公園の集客を図り、来園者に植物公園の役割、機能を知ってもらう機会となった。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 植物公園のタペストリーに源氏物語に関連する絵柄を花で表現することにより、源氏物語や「源氏物語のまち宇治」をアピールできた。集客により植物公園の施設を広く周知でき市民の緑化啓発へと繋がるとともに、入場料収入の増加にも繋がり、その費用対効果は大きいものとなった。						
6 その他の成果 源氏物語千年紀を多くの人にPRするため、来場者や通行者からでも観覧できるようにタペストリーを展開し、時期についても11月1日の千年紀記念式典の日とあわせることにより機運を高めた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏ゆめほたる事業				
事業の概要	<p>平成18年度、宇治市植物公園内(秋のゾーン)のせせらぎの一部を源氏ホタルが棲息できる状態に整備し、永続的に棲息・繁殖可能な環境としている。平成20年度においても、当該公園の夜間開園を実施してホタル鑑賞の場を提供し、併せて関連イベントを実施する。</p> <p><事業目的> 市街地の都市環境の中において棲息環境を維持管理することでホタルの保護にも繋がり、身近にホタルと触れ合う機会を提供することにより、自然環境保全・保護の啓発及び自然環境学習の場とすることができる。また、総合公園として、市民生活に憩いと安らぎの場とすることができ、宇治市植物公園の集客力向上にも繋がる。</p> <p><業務内容></p> <p>①ホタル鑑賞… 宇治市植物公園内秋のゾーン35mの流れをホタル鑑賞区域として午後9時30分まで開園</p> <p>②蛍ミニコンサート… 期間中の日曜日、計4日間開催</p> <p>③蛍に関する展示… 蛍の写真や生態紹介、蛍に関する文化などの展示</p> <p>④蛍ナイトー野外作品展… 地元の学校やフラワーデザイン団体などの協力により、灯ろうなど造形物を屋外に展示し鑑賞</p> <p>⑤「ほたるバス・すいすい号」の運行… 期間中の混雑する土日に、宇治市役所と植物公園を結ぶ無料シャトルバスを運行</p>					
	事業期間	平成20年5月31日～平成20年6月22日				
	総事業費	5,800千円	本年度事業費	5,800千円	交付金交付額	2,000千円
事業評価	事業の必要性	市街地の中において蛍の生育環境を整備することで、環境に対する意識啓発を図る。				
	事業の有効性	源氏物語千年紀関連の他の事業と連携して開催することで効果的な運営を行う。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。				
		2 住民の自治意識を高める成果 市街地の都市環境の中において棲息環境を維持管理することで蛍の保護にも繋がり、身近に蛍と触れ合う機会を提供することにより、自然環境保全・保護の啓発及び自然環境学習の場とすることができた。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 事業内容をホームページに掲載していること、また総合公園内で蛍鑑賞をできることの希少さなどから、市内のみならず市外からの来園者も多数みられ、宇治市植物公園を広く知ってもらった機会となった。						
5 行財政改革に資する成果 宇治市植物公園の来客が増え「緑の情報発信基地」である植物公園の役割及び機能が広く周知でき、本来の設置目的である緑化推進、市民等緑化意識の向上に繋がった。また入場料収入の増加にも繋がり、その費用対効果は大きいものとなった。						
6 その他の成果 当該期間中の夜間入場者数は、平成18年度15,210人、平成19年度22,715人、平成20年度24,253人と順調に推移しており、住民ニーズの高まりを示している。集客により宇治市の「緑の拠点」の施設の役割、機能を周知でき市民の緑化啓発が図れた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語の色と植物特別企画展開催			
事業の概要		<p>源氏物語千年紀事業の一環として、特別企画展「源氏物語の色と植物」を開催した。源氏物語の衣裳の色を植物から復元させた染織家・吉岡幸雄氏による作品と、その染料植物であるムラサキ、ベニバナ、アイを始め、日本ではなかなか目にすることのないチョウジ、スオウボクなどを展示する。その他、源氏物語の色についての出典である「延喜式」から見る染料植物と薬草に関する展示、源氏物語における秋の庭の展示、源氏物語における秋の植物伝統行事である重陽の節句についての展示と体験、源氏物語に見られる植物の写真展示等を行う。</p> <p>また、染織家吉岡幸雄氏による講演会も実施する。</p>			
	事業期間	平成20年10月18日～平成20年11月3日			
	総事業費	4,000千円	本年度事業費	4,000千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	源氏物語千年紀を迎えるにあたり、物語中の色の再現等を行うことで、具体的なイメージを表現し、物語への理解を深める。			
	事業の有効性				
	事業の効率性				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果	京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。		
		2 住民の自治意識を高める成果	期間中に「源氏物語の色と植物」についての講演会を開催し、人と植物の関わりなど緑化の意義などを市民に啓発した。		
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果	草木染の第一人者であり、広く活躍されている吉岡幸雄氏の監修を受け、秋の千年紀事業実施時期における植物公園への来園者の増加が入園料収入の増加にも繋がり、その費用対効果は大きかった。				
6 その他の成果	「源氏物語に登場する色」の原料となる植物・「再現された色」の原料となる植物の展示、解説について専門家の指導・協力を受ける中で内容の深い企画展とすることにより、集客により「緑の拠点」としての宇治市植物公園の機能、役割を広く周知した。また、植物の観点から源氏物語への認識を深めることができた。				

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		「知ろう！学ぼう！源氏物語」事業				
事業の概要	<p>源氏物語千年紀にあたり、源氏物語を市民とともに学び、考える機会として、宇治市生涯学習センターでは3つの事業を実施する。</p> <p>①宇治再発見講座 吟行会—宇治十帖を詠む— 5月25日(日)に宇治十帖古跡を巡り、源氏物語の世界に思いを馳せ、その感動を俳句に詠み、合評会を源氏物語ミュージアムで実施。俳人・佛敎大学教授坪内稔典氏を講師に開催。</p> <p>②『紫式部日記』を読んでみよう～『源氏物語』誕生の舞台裏へ～ 6月6日、20日、7月4日、18日(金)「紫式部日記」から、平安貴族の生活ぶりや、作者紫式部の思いなどを読み解き、多角的な視点から「源氏物語」が成立した舞台裏に迫る、4回の連続講座を実施する。講師は愛知淑徳大学常勤講師の外山敦子さん。</p> <p>③源氏物語を舞い、謡う～能と源氏物語～ 12月7日(日)に宇治市生涯学習センターで実施する。観世流能楽師分林道治氏や大蔵流狂言師茂山千三郎氏などが演ずる「源氏物語」を題材にした能の名曲「葵上」を鑑賞。また能についての解説や笛、太鼓の演奏体験などワークショップを通して世界無形文化遺産である能や源氏物語に親しむ機会とする。</p>					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	1,274千円	本年度事業費	1,274千円	交付金交付額	500千円
事業評価	事業の必要性	「源氏物語のまちづくり」という理念が市民に理解され、若い世代を含めて今後も支持されるためには、源氏物語や古典の学習の機会の提供を継続して行うことが必要である。				
	事業の有効性	宇治市が推進している「源氏物語のまちづくり」というフレーズが浸透する中で、市民の多くは「宇治に住んでいるからには物語を知りたい、学びたい」と考えており、今回の事業で、市民が取り組みやすい形で学習の機会を提供することは、市民ニーズに応えるものである。				
	事業の効率性	京都府及び京都市、宇治市が広域で事業を実施し、関係団体のイベント情報が関連して提供され効果的である。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。				
		2 住民の自治意識を高める成果 源氏物語に関心を高め、宇治のまちと歴史と、まちの魅力を再発見することができた。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 継続して源氏物語に関心をもって学ぶ人もあり、「宇治のまちづくり」の基礎をつくる一つの事業となった。 ①宇治再発見講座 参加者57人 ②4回連続講座『紫式部日記』を読んでみよう～『源氏物語』誕生の舞台裏へ～ 参加者389人(4回分) ③源氏物語を舞い、謡う～能と源氏物語～ 参加者117人						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語千年紀「読む・感じる・綴る」事業			
事業の概要		①『読む』: 市内の3図書館で、各館2週間程度、源氏物語に関する特設コーナーを設置する。 ②『感じる』: 市内の3図書館で、「ひとりものがたり」の会を開催する。 ③『綴る』: 市内在住・在勤・在学の方に「想いびと」(家族・恋人・友達・恩師等)への「手紙」を公募し、優秀作品を選出する。			
		事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日		
		総事業費	1,587千円	本年度事業費	1,587千円
事業 業 評 価	事業の必要性	図書館の基本機能である資料提供等を市民ニーズに即して行うため、新鮮かつ多様な資料の収集を行うことにより、広く市民に源氏物語千年紀への関心を高める必要がある。			
	事業の有効性	宇治市内の3つの図書館が合同で「読む」「感じる」「綴る」という3つの観点で事業を実施することにより、市民に自分たちが住むまちの歴史性を感じてもらおうとともに、家族愛等について考える機会となる。			
	事業の効率性	市民の図書館利用と読書活動を一層前進させるため、平成20年度の源氏物語千年紀にあたり、源氏物語のまちとしての広報活動と市民の要望に応えた読書啓発活動を推進する。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果 ●源氏物語に係る図書・資料の展示 東宇治: 平成20年 9月9日(火)～9月23日(祝) 西宇治: 平成20年10月1日(水)～10月16日(木) 中 央: 平成20年10月28日(火)～11月16日(日) ●「ひとりものがたり」の会 東宇治: 平成20年 9月10日(水)午後6時「若紫」 六嶋由美子(語り)・柴田高明(マンドリン) 参加者70名 西宇治: 平成20年10月8日(水)午後6時「六条御息所」 六嶋由美子(語り)・野中久美子(能管) 参加者85名 中 央: 平成20年11月9日(日)午後6時15分「浮舟」 六嶋由美子(語り)・葉衛陽(中国琵琶) 参加者110名 ●「想いびと」への手紙公募 応募期間: 平成20年6月上旬～7月31日(木) 応募者数97名 <選考委員5名> 京都文教大学人間学部文化人類学科准教授 永野貴子 学校図書館と市立図書館連絡会委員長 水口宏志 宇治市生涯学習審議会委員 宇民雅子 宇治市教育委員会教育部次長 櫻木 武 宇治市中央図書館長 伊藤 勉 ●「想いびと」への手紙 優秀作品受賞者(10名)表彰式 平成20年11月9日(日)午後6時 中央図書館にて開催					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		源氏物語千年紀特別展事業				
事業の概要	<p>宇治市では、王朝文学の最高傑作・源氏物語をまちづくりのテーマにかかげ、平成10年にその核となる施設として源氏物語ミュージアムを開館させた。当館の開館10周年が源氏物語千年紀とも重なることから、展示内容をリフレッシュし、事業の一層の充実を図ることとした。これにともない開館10周年を記念するとともに、千年紀にふさわしい特別展として、近衛家陽明文庫に伝世する源氏物語の古写本を中心とした展覧会を開催する。</p> <p>近衛家と宇治は平安時代から深い関わりがあり、これまでも歴史資料館の展覧会などでその一端を紹介してきた。本年は、場所を源氏物語ミュージアムにあらため、流麗な書の世界から源氏物語と王朝文化に親しむことを目的とする。</p>					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	3,453千円	本年度事業費	3,453千円	交付金交付額	1,000千円
事業評価	事業の必要性	<p>「源氏物語千年紀」を千載一遇の機会として、本市の豊かな歴史と文化をもとに、新たな市民文化の創造と本市の素晴らしさを全国に発信し、これまで進めてきた源氏物語のまちづくりをより一層強く前面に押し出すこと。源氏物語ミュージアムのフレッシュアップ事業の第一弾としてふさわしい事業を実施する。</p>				
	事業の有効性	<p>展覧会では陽明文庫が所蔵する源氏物語に関連する名品の数々を陳列するとともに、古くから記録に宇治が登場することする紹介し、これらの認識を深める。</p>				
	事業の効率性	<p>歴史資料館がこれまで資料調査を継続してきたことによって、陽明文庫の全面的な協力を得ることができた。展覧会開催のコストも最小限におさえることができる。</p>				
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果 展覧会には、源氏物語に関連する国宝や重要文化財といった指定品が陳列され、話題を呼んだ。また、京都府等との連携によって、源氏物語に関連する団体が一体となって、宇治市をPRすることで、広く観光振興に寄与し、宇治市観光基本計画に定める観光入込客数目標値の500万人を平成20年に達成した。</p>				
		<p>2 住民の自治意識を高める成果 源氏物語のまちづくりを標榜する本市にとって、ミュージアムはまさにその象徴的な存在であり、そのリニューアルオープンが大きな成果をおさめたことにより、自治意識の高揚につながった。</p>				
		<p>3 リーディング・モデル成果 リニューアルオープン直後の源氏物語ミュージアムにおける多様な取組の一つとして、PRすることができた。</p>				
<p>4 広域的波及成果 源氏物語千年紀を盛り上げるため実施する取り組みのひとつとして、源氏物語のまちづくりをめざしてきた本市が、観光資源を活かして観光振興を図るものであり、「山城地域振興計画」(「やましろ観光」の推進 ○地域の観光資源の魅力を高めるための施策の推進 ○積極的な観光情報の発信)の趣旨とも合致するものであった。</p>						
<p>5 行財政改革に資する成果 源氏物語ミュージアムにおいて、歴史資料館がバックアップして展覧会を開催するという体制によって、最小限の歳出で大きな効果を得た。</p>						
<p>6 その他の成果 上記展覧会の開催により、源氏物語ミュージアムの飛躍的な入館者の増加に貢献できた。上品で落ち着いたムードの展覧会は、源氏のフレッシュアップの第一弾としてふさわしい事業と評価された。「源氏物語のまち宇治」のイメージアップにも貢献できた。 陳列品を中心とする図書の刊行、講演会を実施し、いずれも好評を博した。ちなみに、展覧会開催期間中(9月3日～11月3日)の入館者総数は、57,794人を数えた。</p>						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		安全・安心まちづくり推進事業					
事業の概要		宇治市安全・安心まちづくり条例及び宇治市防犯推進計画に基づき、防犯意識高揚のための啓発活動や講演会の開催、また、小学校区単位で組織された地域の防犯推進組織に対して活動経費を助成する。さらに、ハード面の整備として、通学路の危険箇所への防護柵設置、側溝改修、歩道の舗装、防犯灯の整備など安全・安心まちづくりに向けた事業を実施する。					
		事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
		総事業費	43,667千円	本年度事業費	43,667千円	交付金交付額	5,000千円
事業評価	事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりの意識の向上こそが、安全で安心して暮らせるまちづくりのために重要な要素であり、そのためには防犯に関する知識の普及としての講演会や啓発活動が必要である。 ・市民が安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、地域の安全は地域自らで守るために活動している小学校区を単位とした地域の防犯組織の活動に対して支援が必要である。 					
	事業の有効性	市民の防犯意識を高めることにより、小学校区を単位とした地域の防犯組織を中心とした地域の安全は地域で守るという体制・活動が維持されており、市民が安全で安心して暮らすことのできるまちづくりを地域から全市的に拡げていくことができる。					
	事業の効率性	地域の防犯推進組織への助成・支援を行うことにより、地域社会で発生する課題解決に向けた方策を自主的に取り組んでいくという意識の醸成を図ることができる。					
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果</p> <p>2 住民の自治意識を高める成果 地域社会で発生する諸課題について、小学校区を1つの単位として、町内会などが参画した地域の防犯組織に市民が参加することにより、地域は住民自らが守るという自治意識の向上に繋げていくことができた。</p> <p>3 リーディング・モデル成果 各小学校区単位で組織された地域の防犯推進組織での取り組みについて、宇治市安全・安心まちづくり推進会議を通じて情報交換を行うことにより、各学区での取り組みの内容を深め、学区(地域)の実情に即した防犯の取り組みへと繋げていくことができた。</p> <p>4 広域的波及成果 各小学校区を単位とした地域防犯推進組織を中心に取組まれている安全・安心なまちづくりが、将来的に複数の学区を含めた大きな地域の防犯活動として市全体へ、更には隣接する市町へと拡がりをみせることにより、より大きな取り組みへと繋げていくことができた。</p> <p>5 行財政改革に資する成果 安全・安心まちづくり助成金により、地域の安全は地域で守る体制づくりと活動の推進をすすめるとともに、子どもや高齢者など社会的弱者の視点から捉えた通学路の危険箇所への防護柵設置、側溝改修、歩道の舗装、防犯灯の整備などのハード面においても、死角のないまちづくりを実施した。小学校区を単位として活動している地域の防犯推進組織との情報交換を通して計画的に、かつ効率的に施策に反映していくことができた。</p> <p>6 その他の成果 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防犯推進組織への助成 ・市民安全・安心推進旬間における防犯啓発講演会の開催 </p>					
	事業の成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		AED整備事業				
事業の概要	<p>突然の心停止の主な原因として心室細動(心臓の筋肉が不規則に震え、全身に血液を送り出すというポンプの役割を果たせない状態。)等があり、これらの症状には自動体外式除細動器(以下「AED」という。)による除細動(電気ショック)が有効で、除細動の処置が早いほど救命率が向上するが、救急車が現場到着するまでに全国平均でおよそ7分かかるため、救急現場に居合わせた一般市民により、救急車が到着する前に心肺蘇生法や除細動を実施することが必要となる。そこで市内の小中学校・幼稚園・保育所・不特定多数の市民が利用する公共施設76カ所にAEDを5年間の賃貸借契約で設置し、救護意識の高揚と救命率の向上を図る。</p>					
	事業期間	平成20年8月1日から平成25年7月31日				
	総事業費	18,993千円	本年度事業費	2,533千円	交付金交付額	1,000千円
事業評価	事業の必要性	心室細動を起こすと1分遅れる毎に10%ずつ救命率が低下する。また、救急車が現場到着するまでの時間は全国平均でおよそ7分かかるため、救急車を待っていたのでは助かる確率が時間経過とともに低くなっていく。このため、救急車が到着する前に救急現場に居合わせた一般市民が心肺蘇生や除細動を行うことで、救命率の向上につながることから、多くの施設へAEDを設置する必要がある。				
	事業の有効性					
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 AEDの設置に伴い、設置した公共施設の職員を中心に心肺蘇生法やAEDの使用法等の講習(普通救命講習Ⅰ)を受講させることで、応急手当の知識や救護意識の高揚を図った。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 テレビ、新聞等多くのメディアに取り上げられ、認知度が高いAEDを市内の主要公共施設76カ所に設置することで、民間企業等への普及促進や設置している立場からAEDに関する的確なアドバイスができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		自転車放置防止対策事業				
事業の概要	<p>市内の鉄道駅周辺を自転車放置禁止区域と定め、区域内に放置された自転車の撤去、移送、返還、保管、処分の一連の業務を通じて、放置自転車問題の解決を目指す。そして、それによって駅周辺の安全な歩行者空間の確保による安心な地域づくり、バリアフリー整備の促進を図る。</p> <p><平成20年度実績> 撤去回数 91回 撤去台数 2,310台 返還台数 1,143台 処分台数 886台</p>					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	11,155千円	本年度事業費	11,155千円	交付金交付額	4,000千円
事業評価	事業の必要性	市内各所で進めているバリアフリー計画の推進、計画に準じた街並みの再整備を図っている中、放置自転車対策は急務になっている。				
	事業の有効性	安全な歩行者空間の確保による安心な地域づくり、バリアフリー整備を促進する。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 宇治市内の鉄道駅周辺の放置自転車をなくすことにより、駅を利用する他市町村住民にも安全で快適な歩行空間を提供し、また、それによってバリアフリー意識を高めることとなった。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 定期的な自転車撤去を行い、撤去した自転車については、徹底して経済的に扱った。本人が撤去自転車を引き取る場合は、本人から費用を徴収した。引き取りにこない自転車で状態の良いものは販売し、状態の良いものを処分する場合は、有価物として業者に売却を行った。						
6 その他の成果 駅周辺だけでなく、自転車放置禁止区域外でも、不用意に自転車を長時間に渡って路上に止めてはいけない、という自転車マナーの向上になり、安全な歩行者空間の確保による安心な地域づくり、バリアフリー整備の促進を図ることができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		自転車等駐車場整備事業				
事業の概要	JR宇治駅前駐輪場には、常時、約25人から30人のバイク定期利用の待機者(キャンセル待ち)がいる。今回の増築工事で35台のスペースが増築されたことにより、待機者が解消される。					
	事業期間	平成21年2月5日～平成21年3月27日				
	総事業費	5,203千円	本年度事業費	5,203千円	交付金交付額	2,000千円
事業評価	事業の必要性	常時、自転車等駐車場の待機者がいる状況であり、駅周辺の放置自転車の解消を図るためにも施設の整備が急務となっている。				
	事業の有効性	通行者への安全な空間の提供、鉄道利用者の利便性の向上などからのバリアフリー化の推進を目指す。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 宇治市内の駅の中でも特に観光客の利用が多いJR宇治駅前駐輪場を整備することにより、JR宇治駅を利用する他市町村住民にも安全で快適な歩行空間を提供し、また、それによってバリアフリー意識を高めることとなった。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 現状の施設敷地を利用した安価な施工で整備を図った。また、駐輪場の増設によって利用料収入が増加した。						
6 その他の成果 他の市営駐輪場でも、待機者が増加傾向にあるが、駐輪場の待機者が少しでも減ることにより市民サービスの向上につながった。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		総合野外活動センター管理運営事業			
事業の概要		施設の安全確保、利便性の向上を図るため、開所10年を節目として、大規模改修を行う。 ・管理棟、宿泊棟、屋内運動場の外壁塗装 ・管理棟、宿泊棟への樋の設置 ・食堂前デッキの撤去、及び撤去後のインターロッキングの敷設 ・アスレチック施設ロープウェイ遊具修繕			
		事業期間	平成20年7月7日～平成21年2月27日		
		総事業費	19,530千円	本年度事業費	19,530千円
事業 評 価	事業の必要性	宇治市総合野外活動センターは、平成11年に開所したスローライフをスローガンにした自然と触れ合える施設である。利用者は年々増加しており、平成19年度の利用者は89,222人であった。また、当施設は山間部に立地しているが、企画、運営について地域と密着して行うことにより地域振興に大きく貢献している。当施設は、開所より10年が経過しており、施設の老朽化が激しく、利用者の安全の確保が困難になっている。利用者の増加、地域振興への役割なども考え合わせると、施設を改修し安全を確保することは急務である。			
	事業の有効性	外壁の塗装、樋の設置、腐食している食堂前デッキのインターロッキングへの変更、アスレチック施設ロープウェイ遊具の修繕により、施設の耐久性を高め、利用者の安全が確保できる。			
	事業の効率性				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果 開所10年を節目として、大規模改修を行うことにより、利用者の増加(前年度比3,262人増)に繋がった。それに伴い使用料収入も増加し、その費用対効果は大きいものとなった。					
6 その他の成果 上記のとおり、施設の耐久性の向上、利用者の安全確保ができた。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		輝き支援2015高齢期支援システム創造事業費				
事業の概要	<p>団塊の世代の全てが65歳以上の高齢期を迎える2015年に向けて、その世代を主な参加者層として捉え、健康づくり、生きがいくくり、地域参加の契機となる事業として、各種講座事業・シンポジウムを実施する。</p>					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	7,200千円	本年度事業費	7,200千円	交付金交付額	3,000千円
事業評価	事業の必要性	<p>団塊の世代の方が高齢期を迎える中で、本市の高齢化率も平成26年度には25%に達すると見込まれている。今までのように年齢だけで画一的に「高齢者」といつてきた概念を変え、多様な価値観に応じた施策を検討し構築していくことが早急に必要となっている。</p>				
	事業の有効性	<p>団塊の世代の方の社会参加の契機となる事業を実施していくことにより、現役を退いた後も社会の一員として積極的に社会参加してもらえらることになる。また、健康づくり・生きがいくくりへの意識を持ってもらうことで、将来的には介護予防にもつながっていく事業であるといえる。</p>				
	事業の効率性	<p>事業を宇治市福祉サービス公社に委託し、実施する。健康・運動・退職後の生活設計等をテーマに様々な事業を展開する。なかでもフォークコンサートでは、出演者および運営スタッフを公募で募集し自主的な運営を図ることで、事業をより効率的に実施する。</p>				
	具体的な成果	<p>1 府と市町村等との連携に資する成果 山城地域振興計画「健康長寿の山城づくりの推進」「やましろの地域力再生による地域社会づくり」の中の団塊の世代の健康づくり、地域力再生プロジェクトの推進に向けた取組みに資するものと位置付けている。</p>				
		<p>2 住民の自治意識を高める成果 当事業の一環として開催したフォークコンサートには市民スタッフを募り、自主的な運営を行った。また、ボランティア研修会では、ボランティアの役割や活動の良さについて今からボランティアを始めようと考えている市民やすでにボランティア活動を実施している市民が、基本的な内容を学習し、今後の地域社会でのボランティア活動の活性化に資する事業となった。</p>				
		<p>3 リーディング・モデル成果 当事業の参加者へのアンケートや市民意識調査の分析により、潜在的な将来ニーズを把握しながら、21年度以降の事業を構築していく基礎資料として活用することで、新たな事業を生み出していくモデル的な事業となった。</p>				
<p>4 広域的波及成果 当事業を契機として、高齢期にさしかかる団塊の世代を始めとする市民の社会参加や地域活動が活発になっていくことで、今後、地域全体さらには市域全体の活性化につながった。</p>						
<p>5 行財政改革に資する成果 当事業を実施する中で、来たるべき超高齢社会に備えた新しい事業を開発し、団塊の世代の社会参加を促すことで、団塊の世代のニーズに対応した効率的、効果的な新たな施策の展開へつないでいくことができた。</p>						
<p>6 その他の成果</p>						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		社会福祉協議会活動事業費補助金			
事業の概要	<p>ボランティア団体等の活動に関する相談、調整、広報、ボランティアの養成を行う人員の配置に対しその人件費の一部を補助する。地域における個人・団体のボランティア活動の調整を図り活性化を促進することにより、今後の地域福祉推進に重要な役割を果たす。</p>				
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日			
	総事業費	1,959千円	本年度事業費	1,959千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	<p>ボランティアコーディネーターは、ボランティアの受け手と担い手の登録・つなぎ等の調整をはじめ、広報・啓発活動、研修会の開催等を行ってボランティア活動推進の中核を担っている。また、今後、住民主体の地域福祉推進の観点からも、ボランティアの養成とその活動の推進は不可欠である。</p>			
	事業の有効性	<p>これまでのボランティアコーディネーターの活動の成果は、ボランティア登録者数および相談件数等からうかがえるとともに、今後はボランティアの力をより有効に活用するための育成とその調整、また新たなボランティアの養成支援を目指す。</p>			
	事業の効率性	<p>地域でボランティアを育成し、活動を活性化していくための動機付けと土壌作りは長い年月を要するもので、継続的な活動支援を行うことが必要である。</p>			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		<p>2 住民の自治意識を高める成果 本市において、平成15年度に策定した宇治市地域福祉計画の地域福祉推進のプログラムにおいて「地域、ボランティア、NPOなどと連携した新しいサービスづくりの支援」が掲げられており、ボランティア活動の活性化のためのボランティアコーディネーターの設置は、本市住民の自主的な地域福祉活動を推進することができた。</p>			
		<p>3 リーディング・モデル成果 本事業は、住民が自主的に進めるボランティアを行政が支援していくことを趣旨とする事業で、今後目指すべき住民と行政との協働の推進モデルとなった。</p>			
<p>4 広域的波及成果 本コーディネーターを設置している宇治市社会福祉協議会において、他市町村の社会福祉協議会と情報交換等協力関係を築いており、宇治市社会福祉協議会へのボランティアコーディネーター設置を継続することにより、本市のボランティア活動が一層活性化することで、隣接する他市町へもその効果の波及が期待できるものとなった。</p>					
<p>5 行財政改革に資する成果 ボランティアの活動は行政では対応しきれない事柄を有機的横断的に解決するために活動をしている。公民の協働による行政運営が可能となり、引いては効率的な財政運営にもつながることから、現況ボランティアコーディネーターの果たす役割は重要であり、本事業への支出は効率的な行財政運営に資する効果があった。</p>					
6 その他の成果					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		地域子育てひろば開設事業				
事業の概要	核家族化が進行し、地域コミュニティが希薄化する中で、孤立している子育て過程を支援するため、地域住民による「子育てひろば」運営等に対し補助を行う。 ※地域子育てひろば…親子で一緒に楽しく遊び、子育て交流を広めるために、地域のボランティア等が集会所等で運営している子育てひろば					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	222千円	本年度事業費	222千円	交付金交付額	50千円
事業評価	事業の必要性	子育て親子が交流できる場所を求める声は多いが、「参加者」としてであり、住民自ら自主的に行おうという意識が希薄になりつつある。また、そうした意識を持つ市民がいても経済的負担等から長続きしないケースが多い。				
	事業の有効性	地域の子育て親子の交流拠点を提供することで、子育ての孤立化を防ぐことができる。中でも、地域住民が市民活動として支援活動を行うことで地域コミュニティの醸成を図ることができ、より密接な人間関係の構築が期待できる。				
	事業の効率性	地域住民が主体であるため、直接的に住民ニーズが反映されたと考える。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 行政は補助金の交付や運営上の助言のみを行うにとどまり、運営そのものや地域との折衝は基本的に関与しないことにより、「子育てひろば」を運営する市民自身の調整力が育成された。				
		3 リーディング・モデル成果 「子育てひろば」を設置することで地域の活性化につながり、その広場の中だけでなく町内全体のつながりの拡大につながった。				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 行政が実施や負担すべき事業と市民の手にゆだねるべき事業の役割分担ができ、費用対効果においても改善が見られた。						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		木工教室開催				
事業の概要	<p>宇治市や他団体主催イベントの一部として木工教室を開催する。この木工教室で、木材の暖かさ、自然の持つ優しさや豊かさが体験でき、森林の大切さや森林機能の多様性について学ぶことが出来る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 宇治市花と緑のキャンペーン（宇治市公園緑地課主催 4月27日 天ヶ瀬森林公園にて）森の木工親子小枝工作教室（50組100名参加） 太陽が丘夏休み親子工作教室（（財）京都府公園公社・宇治市農林茶業課共催 8月18日 太陽が丘にて）親子木工教室（36組72名参加） 宇治市農林まつり（宇治市農林まつり実行委員会主催 11月23日西宇治公園グラウンドにて）木工教室（75組参加）、小枝工作（75組参加）、丸太切（50組参加） 					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	120千円	本年度事業費	120千円	交付金交付額	50千円
	事業の必要性	自然ばなれやものづくり離れといった現代の子どもたちの問題に対して、その環境と機会を設けることに行政が関わる事は、青少年の健全育成に大きく寄与するものである。				
事業評価	事業の有効性	次世代を担う子どもたちに、ものづくりに触れる機会を提供するために実施される事業であり、感性と思考力を育む効果にも期待できる。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 山城地域チャレンジプランの科学好き・ものづくり好き子ども育成プランにより、宇治市農林まつりには京都府との連携から指導者の派遣を受けた。				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
		4 広域的波及成果				
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		ふるさと活性化推進下水道整備事業				
事業の概要	水循環サイクルの中で、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る重要な施設であり、都市の健全な発達のために必要不可欠な施設となっている公共下水道の整備を進める。					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	1,810,463千円	本年度事業費	1,810,463千円	交付金交付額	10,240千円
事業評価	事業の必要性	安全で快適な市民生活の維持及び豊かな自然環境の保全を図るためには、市民生活や事業活動において発生する汚水の下水道終末処理場による適正な水質改善が必要不可欠なものである。				
	事業の有効性	公共下水道は、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る上で重要な施設であり、その効果は一都市にとどまらず、広域的な水循環システムの施設として環境負荷を削減し、下流域の水質改善を含む広範囲にわたる受益をもたらすことになる。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 下水道事業の啓発活動を通じて水洗化の促進を図るとともに、快適で便利な都市環境を形成する意識を高めることができた。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 汚水処理を充実させることによる環境改善効果は、一都市だけの水質改善に限られるものではなく、河川流域全体の環境負荷を低減させることができた。						
5 行財政改革に資する成果 下水道事業の啓発活動を通じて、水洗化の促進を図り、事業経営の安定化に寄与することができた。						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		公共交通空白地域対策事業費				
事業の概要	<p>公共交通空白地域対策として既存バスの路線変更による実証実験を行い、有効性を確認し、今後の対策を検討する為の資料とする。</p> <p>①-1行先表示等改造… 合計3台の行き先表示の改造を行う。</p> <p>①-2停留所設置… 新規ルートにおいて、合計17箇所バス停標柱の設置を行う。</p> <p>②車輛運行委託 運行期間 平成20年9月1日～平成21年2月28日 運行ルート 112系統(京阪宇治駅-宇治市役所-大川原-徳洲会病院-近鉄向島駅) 113系統(京阪宇治駅-中研前-大川原-徳洲会病院-近鉄向島駅) 運行便数 112系統 1日5.5往復(11便)、113系統 1日1.0往復(2便)</p> <p>③乗降調査 実証実験前、実証実験中の乗降調査を行う。(1週間×3回=21日間)</p>					
	事業期間	平成20年8月1日～平成21年2月28日				
	総事業費	6,180千円	本年度事業費	6,180千円	交付金交付額	2,000千円
事業評価	事業の必要性	鉄道駅やバス停から離れている公共交通空白地域(鉄道駅から1,000m、バス停から400m以遠を公共交通空白地域と定義する)が存在することから、地域の状況に応じた施策が必要である。				
	事業の有効性	公共交通空白地域対策事業の実施により高齢者等の移動制約者のモビリティが確保される。				
	事業の効率性					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果 宇治市では比較的公共交通が恵まれているため、コミュニティバスの運行という従来方式ではなく、既存バスの路線変更による実証実験を行うことにより、事業の有効性を確認することが可能となった。				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 市営のコミュニティバスを運行することに比べ低コストであり、実証実験後はバス事業者の営業路線と位置づけることで、補助の期間を限定することが可能となった。						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		地球温暖化対策推進事業				
事業の概要		<p>「宇治市地球温暖化対策地域推進計画」の温室効果ガス排出源の各部門（産業・運輸・民生家庭・民生業務・廃棄物・行政）に求められる温室効果ガスの削減に効果的な取組について、市民及び事業者に普及啓発し、その活動を支援することで削減目標を達成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテンの普及 庁舎をはじめ、市立保育所8カ所、学校及び幼稚園12カ所に緑のカーテンを設置。また、商店街にも協力を求め、店先など27カ所に設置。 ※緑のカーテン・・・建物の窓ぎわにつる性植物をカーテン状に育成して日ざしを遮り、室温を下げることにより、空調負荷を抑えるだけでなく、二酸化炭素を吸収するなど、地球温暖化防止効果が期待されるもの。 ・事業者向けエコ研修の開催 環境マネジメントシステム認証取得者数を伸ばすため、研修を実施する。 ・「宇治市地球温暖化対策地域推進計画」の普及啓発イベントの開催 平成20年11月8日、9日に「宇治環境フェスタ2008」という市民を対象にしたイベントを開催し、講師を招いた環境講演会や省エネ診断等を実施する。 ・地球温暖化対策推進パートナーシップ会議の設立 平成21年3月8日に、市民・事業者・市の三者協働で温暖化対策を推進する組織「宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議」を設立する。 				
		事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日			
		総事業費	3,016千円	本年度事業費	3,016千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	宇治市は平成20年3月に市域から排出される温室効果ガス削減を目的とした「宇治市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、この計画達成のために市民・事業者の温暖化対策活動を促進する必要がある。また、行政のみでは達成が困難であるため、三者協働が可能となる組織を設立することで、効果的な施策展開が可能となる。				
	事業の有効性	地球温暖化対策を推進するため、施策の方針や事業を体系化し、市民・事業者・市がとるべき行動を明確にするため、三者協働により地球温暖化対策を推進する「宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議」を平成21年3月に設立した。この組織は、行政主導ではなく、可能な限り参加住民の意思を尊重することで、自主性を高める効果があると考えられる。				
	事業の効率性	「パートナーシップ会議」において、会員の所属する自治会・町内会や一般企業・学校等において地球温暖化に関する勉強会等を計画しており、こういった活動により市全体へ地球温暖化に対する意識の向上・活動が拡がるのが期待される。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 「パートナーシップ会議」において、会員の所属する自治会・町内会や一般企業・学校等において地球温暖化に関する勉強会等を実施し、こういった活動により市全体へ地球温暖化に対する意識の向上・活動を広げることができた。						
5 行財政改革に資する成果 「パートナーシップ会議」は、地球温暖化防止活動等を行う組織であり、かつ、宇治市に提言が可能な組織として位置づけられている。そのため、本事業及び関連事業に対して一般住民の観点から、より効果的なものにする機会を得ることができ、より効率的な行財政運営につなげることができた。						
6 その他の成果 宇治市は平成20年3月に市域から排出される温室効果ガス削減を目的とした「宇治市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、この計画達成のために市民・事業者の温暖化対策活動を促進する必要がある。その中で、行政のみでは達成が困難であることから三者協働が可能となる組織を設立したことで、効果的な施策展開が可能となった。 環境マネジメントシステム研修を実施し、12事業者の参加があった。また、「宇治環境フェスタ2008」では、約400名の来場者があった。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名: 宇治市

事業名		みどりのボランティア推進事業				
事業の概要	<p>平成20年6月から9月にかけて行われた「緑のボランティア養成講座」の運営、並びに緑化ボランティアの活動を支援する事業である。</p> <p>○宇治市緑化ボランティア「みどりの会」 登録者数 継続 44名 新規 30名 計 74名</p> <p>活動内容は、植物公園内の花壇管理、苗作り、ハーブ管理、バラ管理、黄檗公園花壇管理、西宇治公園花壇管理の6組(重複可)に別れて活動する組活動や、植物公園の講習会やイベントに協力する活動、「みどりのカーテンお助け隊」「視察研修」「植物公園での車椅子介助を目指す活動」の3つのグループ活動、月1回に行う植物公園花壇の全体活動などを実施する。また、山田池公園に視察研修を行う。</p>					
	事業期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日				
	総事業費	2,311千円	本年度事業費	2,311千円	交付金交付額	1,000千円
事業評価	事業の必要性	都市緑化を市民と協働で行うため、必要な知識・技術を備えた緑化リーダーを養成する。また、宇治市の「緑化拠点」である植物公園の市民利用を広げ、事業運営についてもボランティアの参加を図ることにより、身近な施設として利用してもらう。				
	事業の有効性	公園等での活動を通じてボランティアリーダーが中心となり、地域自らの意思と手法による環境美化の推進やゆとりある生活空間づくりを実現することができる。				
	事業の効率性	地域の自主的な活動によって公園等の環境美化が行われることにより、良好な生活環境を保つことができ、結果として維持管理費の軽減につながる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 ボランティアを養成し、多くの地域住民と行政がパートナーシップを組み、うるおいのある環境づくりを行える協働関係を築くことができた。				
		2 住民の自治意識を高める成果 身近な生活空間である公園等での活動を通じて、ボランティアリーダーが中心となり、地域自らの意思と手法による環境美化の推進やゆとりある生活空間づくりを実現することができた。公園花壇整備事業とあわせて、地域における自主的な緑化推進・環境美化を実現することができた。 ※ボランティア登録者数 74名				
		3 リーディング・モデル成果 「緑のボランティア養成講座」や植物公園等における実践活動を通じて得た園芸の知識や技術を、地域における各種活動の中で参加者に広めることにより、緑化推進の面で多くの市民への相乗効果を発揮した。				
4 広域的波及成果 ボランティアリーダーが植物公園を拠点として活動していることから、地域における活動内容や様々な情報を集約することができるだけでなく、それが地域を越えて広がりを見せ、全市的なネットワークの形成を実現できた。						
5 行財政改革に資する成果 「緑の情報発信基地」である植物公園の管理・運営の一部を市民との協働で行うことにより、その利用価値を高め、効率的な施設運営を実現できた。						
6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		公園花だん整備事業				
事業の概要	新成田第2緑地給水装置(散水栓)設置工事 当緑地は地元住民の憩いの場として利用頻度が高い緑地であり、主要道路に隣接しているため一般市民の目につきやすいところに立地している。当緑地の花壇は地元住民が管理しており、緑化啓発はもとより市民に安らぎと憩いの場を提供している。その花壇の維持管理を継続するため散水栓を設置し、緑地内の花壇への給水を行えるよう公園花壇整備を実施する。					
	事業期間	平成20年9月5日～平成20年11月3日				
	総事業費	819千円	本年度事業費	819千円	交付金交付額	400千円
事業評価	事業の必要性	地域住民の手で維持管理を行えるよう散水栓を設置し、地域環境ならびにコミュニティの自主形成を推進する。				
	事業の有効性	ハード整備を行政が行い、日常の維持を地域で行うことにより役割分担を明確にし、自主意識の啓発と経費軽減を図る。				
	事業の効率性	日常の維持管理を地域が行うことで、花壇の維持が丁寧になり、長く地域に「緑」を提供することができる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果 身近な公園の花壇を管理することにより、地元住民による公園の環境美化、緑化推進につながった。地域住民の手で公園が管理されることにより、公園は地域の財産であるという意識啓発の高揚に繋がった。				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果						
5 行財政改革に資する成果 公園の環境美化、緑化推進を地域住民の手によって行うことにより、管理経費の縮減を図ることができた。						
6 その他の成果 地域住民の緑化意識の向上、環境美化、また地球温暖化に繋がった。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名:宇治市

事業名		排水路修繕事業				
事業の概要	<p>昨今の経済情勢の悪化に対応し、緊急に対応の必要な事業箇所における早期対応により、市内事業者の雇用創出などを図る。</p> <p>既設雨水排水管路管更生工事 管径 φ500mm 工事延長 L=31m 更生厚 t=16.5mm</p>					
	事業期間	平成21年2月10日～平成21年3月31日				
	総事業費	6,798千円	本年度事業費	6,798千円	交付金交付額	2,480千円
事業評価	事業の必要性	経済情勢の悪化に対応し、予備費を活用した必要箇所の工事を実施することにより、景気回復の一助とする。				
	事業の有効性	工事発注を行うことで、地元経済の活性化を図る。				
	事業の効率性	早期の施設補修により、防災および今後の維持管理経費の節減等を図る。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 局所的集中豪雨時など、周辺地域における溢水対策として事業を実施した。						
5 行財政改革に資する成果 早期の施設補修により、防災および今後の維持管理経費の節減等を図ることができた。						
6 その他の成果 次年度工事発注予定の前倒しにより、地元土木建設業者の雇用維持・創出及び事業効果の早期発現が可能となった。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。